



加藤哲夫さんに瑞宝双光章

加藤哲夫さん(新神子区)が瑞宝双光章を受章し、6月16日、市役所で柳澤市長から伝達されました。

加藤さんは、相良中学校や地頭方小学校などに勤め、御前崎小学校長を最後に平成8年に退職。その後、旧御前崎町の教育委員を8年間務めました。「子どもと信頼関係を築くことを一番に考え、39年間勤めた」と当時を懐かしみながら話しました。

◀「子どもの大事な時期を支えてくれた」と感謝する柳澤市長



長年の功労に感謝状を贈呈

行政相談委員を22年間勤め、今年3月末をもって退任した大澤幸子さん(西側区)に総務大臣から感謝状が贈られることとなり、6月19日、総務省静岡行政監視行政相談センターの吉田功児所長が伝達しました。

大澤さんは「行政のことだけでなく、身の上話などさまざまな相談を受けて、少しでも力になることができればと思い、活動してきた」と振り返りました。

◀大澤さんは「家族の支えで長く務められました」と話しました



犬とふれあい愛護心を学ぶ

一般社団法人静岡県動物保護協会による動物愛護教室が6月21日、浜岡東小学校で開かれました。

同教室は、動物に関する正しい知識や命の大切さを学ぶことが目的。児童は、犬の特徴や病気、接し方などを学んだあと、実際に犬とふれあいました。河原崎亜粋さん(佐倉三区)は「いろいろな犬がいて姿が違うけど、みんなかわいい」と微笑みました。

◀犬との正しい接し方を実践する児童



本物の虫と図鑑を見比べる

虫の奥深さを伝える「こんちゅうクンが御前崎市にやってくる！」が6月24日に開かれ、市内小学生の親子42人が参加しました。講師は、磐田市竜洋昆虫自然観察公園館長のこんちゅうクン(北野伸雄さん)。

参加者は「アメンボは飴の匂いが名前の由来ということを実物にふれてみてわかった」と納得した表情で話しました。

◀蚕の幼虫を手に乗せ観察する参加者



ウミガメの保護活動を見学

ウミガメ保護活動見学会が6月17日から25日までの土・日曜日、下岬海岸で開かれました。

5月から10月まで実施されているウミガメ保護監視員による保護活動を見学することで、ウミガメ保護意識の啓発を促すことが目的。保護監視員の曾根敏治さん(新神子区)は、「ウミガメの命を守る活動に関心をもってほしい」と訴えました。

◀監視員から保護活動を学ぶ参加者



国際交流事業に多大な貢献

市に公益目的で高額寄付をした株式会社望月塗工に紺綬褒章が贈られることとなり、6月19日、市役所で柳澤市長が望月会長に伝達しました。

昨年7月の寄付額は1,000万円。同社は、1990年から毎年寄付を重ねており、総額3億3600万円となりました。この寄付金は、主に小中高生の海外研修や派遣事業に役立てられています。

◀「子どもたちの夢を育てる手伝いをしたい」と話す望月会長



税金って何?を楽しく学ぶ

市職員が学校へ出向いて、国や県、市へ納められた税金の使い道などを教える「租税教室」が6月22日、白羽小学校の6年生を対象に開かれました。

税金とは何か、どのように使われているかなど、税金を身近に感じてもらうことが目的。柏原碧音さん(白浜区)は「税金は公共サービスに使用され、自分たちの生活が守られていることを知りました」と話しました。

◀1億円分の紙幣のレプリカに驚く児童



ポンプ操法訓練をお披露目

市消防団によるポンプ操法訓練が6月25日、マリパーク御前崎で実施されました。10隊の団員が、有事の際に迅速、確実かつ安全に消防用機械器具を取り扱い、操作するための「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」2種目の訓練成果を披露しました。

増田吉秀消防団長は「今後も自分たちのまちを守れるよう技術の向上に努めてほしい」と話しました。

◀火点に向かい放水する団員